

平成23年度「OB・保護者による進路講演会」開催される

1・2年生の進路意識の啓発と進路選択の支援を目的に始まったこの講演会も、今年で6年目を迎えました。隔年で本校のOBまたは保護者の講師を招き、高校時代に打ち込んだこと、進路を選ぶまでの紆余曲折、職業生活の基礎となることなどをお話いただき、生徒へのキャリア教育に役立てています。

今年の進路講演会は、6月14日(火)の5・6校時、次の2名のOBの方々にご来校をいただき開催されました。

- ① 苫小牧市立病院 リハビリテーション科 副技士長 佐藤 真二 さん
- ② 株式会社 札幌総合動物病院 代表取締役社長 土佐 悦朗 さん

お一人目の佐藤さんは、理学療法士です。中学時代は合唱部に所属していましたが、高校から硬式野球部に所属。部活動の練習でとにかく走らされ、疲れてしまい、なかなか勉強に集中できなかつたが、負けず嫌いの性格から、友人とは互いに成績を競い合っていたそうです。高校時代はずっと建築士に憧れていましたが、予備校生のときにリハビリテーションの分野の将来性を知ると、「家を建てる仕事」よりも「人間を立て直す仕事」に大きな魅力と意義を感じるようになり、大学に進んでからは、リハビリテーションの授業で英語とドイツ語の論文を読む力が必要とされ、高校までの英語の勉強がいかに大切か痛感したそうです。理学療法士の活躍の場についても触れられ、病院での臨床以外の事例として、寝たきり患者の筋力トレーニングの方法が宇宙飛行士の帰還後の筋力トレーニングに応用されているという、最新の研究動向を紹介されました。

お二人目の土佐さんは、獣医師です。高校時代(若草町のガタ高時代)は、硬式野球部に所属し、何よりも野球に打ち込んだそうです。限られた人数で互いのミスのカバーしあった経験が今の社長業に役立っていると、部活動の大切さを語られました。また、獣医師の仕事の重要性を多くの人に知ってもらいたいということで、獣医師が活躍する場は、病院や保健所のほか、食肉処理センターの検査技師、動物医薬品の開発など多様であること。獣という字を使っているが、四つ足の哺乳類だけを治療するのではなく、鳥類、爬虫類、魚類、すべての動物が治療の対象であり、本当は動物医と称するのが適切だということ。また、獣医学には内科や外科のような区別がないので、すべての動物の身体の構造を知る必要があることなど、職業の世界を垣間見せてくださり、「将来何になりたいか決まっていな人がいたら、ぜひ獣医師の道を考えてほしい、十年後に同僚として再会できれば、これ以上の喜びはありません」と、熱いメッセージをいただきました。

最後に、生徒を代表して鈴木雄大くん(2年7組)が「お二人の話を聞いて、進路実現のためには『授業と部活動の両立が大事だ』ということが大変印象に残りました。これからの進路選択に役立てていきます。」と、お礼の言葉を述べ、講演会を終了しました。